

令和3年度 第1回足柄広域新モビリティサービス推進協議会 議事録

日 時 令和3年11月5日（金） 15:15～16:20

場 所 役場 4階 4AB会議室

出席者 構成員：別紙「出席者名簿」のとおり

※13名出席（うち委任状1名）

事務局：政策推進課

鈴木、鍵和田、杉崎、市川（官民連携まちづくりアドバイザー）

【会議次第】

- 1 開会
- 2 足柄広域新モビリティサービス推進協議会の設置経緯
- 3 委員紹介
- 4 協議事項
 - (1) 会長・副会長・監事の選出について
 - (2) 足柄広域新モビリティサービス推進協議会設置要綱（案）について
- 5 その他
- 6 閉会

【会議概要】

- 1 開会
 - ・事務局より開会のあいさつ。
 - ・委嘱状を机上配布とする旨説明。
 - ・事務局長（政策推進課 鈴木課長）よりあいさつ。
- 2 足柄広域新モビリティサービス推進協議会の設置経緯
 - 事務局
 - ～資料1に基づき説明～
- 3 委員紹介
 - ・自己紹介
 - ・令和3年度から、「官民連携まちづくりアドバイザー」として委嘱した、市川和男氏を紹介。
- 4 協議事項
 - ・委員13名のうち12名出席しており、会議が成立していることを事務局より報告。

※欠席者1名については委任状の提出あり。

(1) 会長・副会長・監事の選出

- ・「足柄広域新モビリティサービス推進協議会要綱第4条第2項」により互選による会長の選出を実施し、NPO法人アーバンデザイン研究体理事長の杉本委員が会長に選出された。
- ・要綱第4条第2項により、東海大学工学部土木工学科の梶田委員が副会長に選出された。
- ・要綱第4条第3項により、自治会長連絡協議会会長の青木委員が監事に指名された。

○杉本会長（あいさつ）

- ・松田町ほど交通体系が揃っている地域はなかなか無い。
- ・地域内の交通は必ずしも自由に移動できるようにはなっていない。
- ・少子高齢化の時代であるため、これまでの交通サービスでは対応しきれないものに対応するために、新しい交通サービスを提供することを検討する。
- ・知恵を出していただき、近隣地域との連携を含めて、松田町に合った交通サービスの検討をしていきたい。

(2) 足柄広域新モビリティサービス推進協議会事務局規約（案）及び財務規約（案）について

●事務局

～資料2-1、2-2、2-3に基づき説明～

- ・将来的に「AI オンデマンド車両」を運行することとなった場合、本協議会は、交通空白地域の認定や有償運送・福祉有償運送について協議を行う運営協議会を兼ねることを想定している。
- ・財務規約（案）について、以下の箇所について修正させていただきたい。
 - ①第2条第5項、第9条第3項の規定について、「松田町長に送付しなければならない。」を「松田町長及び交通会議の会長に送付しなければならない。」とする。
 - ②第7条、第8条の規定について、「交通会議」を「協議会」とする。

○杉本会長

- ・資料の修正等がありましたので、後日各委員へ送付してください。
- ・質問等はないようなので、承認いただいたこととして進めます。

(3) 令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について

●事務局

～資料3に基づき説明～

○青木委員

- ・事業計画について、ニーズ調査やヒアリングの前にどのような交通サービスをするのかなどの概要（案）を作っておかないと、町民が理解できない。概要（案）を作成し、本協議会で承認してから実施した方が良いのではないか。

●事務局

- ・現時点、概要を示せる資料はできていない。
- ・予算の承認後、速やかに委託契約を締結し、概要を作成したい。作成後は、青木委員に確認していただき、12月の自治会長連絡協議会にて各自治会長へ説明させていただきたい。ご協力をお願いしたい。

○委員

- ・予算（案）について、運営費と予備費が0千円となっているが、委託料が予算額を超えてしまったらどうするのか。

●事務局

- ・国にお認め頂いた事業費で計上している。松田町一般会計の中に公共交通会議の予算があるため、事務的な予算はそちらから対応させていただきたい。

○委員

- ・事業計画（案）について、来年度以降の流れが見えない。計画を作るだけの協議会なのか、来年度以降に社会実験をやっていくのかなど、今後の流れについて説明させていただきたい。

●事務局

- ・今年度は、まず計画を策定させていただきたい。実証実験やAIオンデマンドの運行、MaaSの導入など、様々なことが考えられるため、協議を重ねて計画を策定したうえで、来年度以降も、継続してご協力をお願いしたい。

○杉本会長

- ・今年度に会議を2回開催する予定となっているが、その際に、どのようなことを協議するのか。

●事務局

- ・本日は、規約などの基本的なルールを承認していただいた。この後、速やかに委託契約を結ばせていただく。12月には、アンケート調査を実施したいと考えている。
- ・1月末に第2回目の会議を開催し、調査の結果・分析などをご説明させていただきたいと考えている。また、このタイミングで、計画のたたき台に結び付けるようなスピード感でないと策定まで終わらないと思っている。
- ・このような形で進めていき、委員の皆さまからご意見をいただきながら、2

月下旬～3月上旬に計画（案）を作成したいと考えている。

○委員

- ・新モビリティを実施していくための計画なのか、単なる計画なのか。

●事務局

- ・実施するための計画を策定します。

○杉本会長

- ・質問等はないようなので、承認いただいたこととして進めます。
- ・非常にタイトなスケジュールで進めていくため、委託契約の締結手続きなどのほか、軽微な案件などの対応につきましては、できれば私に一任していただいて、協議すべき案件がありましたら、書面等によりお伺いする。このような形で推進してよろしいでしょうか。

○委員

- ・異議なし

5 その他

○杉本会長

- ・規約などについて承認いただきましたが、その他ご提言などはありますか。

○委員

- ・新モビリティサービス事業計画を策定していただくと、関東圏内では「第1号」となる。新しい制度であり、内容についても手探りの状態。ある意味自由に策定でき、モデルケースとして策定していくことも可能であるため、自由な協議をしていただきたい。内容も含めてサポートさせていただく。
- ・住民の皆さまが使っていただけるような、実現可能性がある計画としていただきたい。

○委員

- ・アンケート調査をしっかりと踏み込んで実施していただきたい。
- ・既存交通との関係を検討しながら、新モビリティを推進していただきたい。

○委員

- ・交通空白地域の認定は、どのような条件を満たすと認定されるのか。

●事務局

- ・運営協議会が必要。本協議会はその役割を兼ねる。交通空白地域の定義は、バスやタクシーなどが著しく厳しい地域。今、交通空白地域に対する考え方が、限界集落などのみでなく、幅広くなっている。
- ・買い物は大井町へ行くなどといった住民ニーズを十分拾い取った形で事業計画を策定し、そのなかで、交通空白地域をどう定義するかという協議になると考

える。

○委員

- ・プライオリティが高いのは、学生なのか高齢者なのか買い物なのか、すべての方が大満足になることは難しいと考える。優先順位の考え方はあるのか。

●事務局

- ・高齢化が進むことにより、家からバス停に行くことがつらい。といったことから、買い物や外出が億劫になることにより、健康管理に支障が出ると考える。外出しやすい環境を作り、健康寿命の延伸につなげたい。
- ・ニーズ調査により新しいニーズが出てきた場合、各交通事業者様と個別に協議しながら盛り上げていき、交通弱者を生まないような地域にしたいと考えている。

○委員

- ・本協議会で案を作ることは承知したが、交通会議に諮ることが必要ではないか。いつのタイミングで、交通会議に示すのか。

●事務局

- ・そこをフォローするために、交通会議の古舘会長にオブザーバーとして参加していただいております、詳細な議論を聞いていただきたいと考えている。
- ・交通会議へ進捗管理等の情報共有などを図っていきつつ、ベストな方法を模索しながら推進していく。

○委員

- ・本協議会が目指すものは、資料1の（参考）のイメージ図が完成形なのか。または、このイメージ図は案の中の一つなのか。

●事務局

- ・現時点での案。本協議会で、どのような手法が良いのかなどを協議していきたいと考えている。

○委員

- ・そうなった場合に、鉄道事業者との連携が必要となった場合、小田急電鉄や JR 東海も参加していただくのか。

●事務局

- ・参加していただく。

○オブザーバー

- ・交通会議へ図ることは重要なポイントになる。本協議会は交通会議の分科会と

いう位置づけのため、交通会議へどのようにフィードバックされるのか、承認を受けるのかは非常に重要。ぜひ、そのような機会を作っていただきたい。

●事務局

- ・動きがあった際には、書面協議となってしまうと思うが、交通会議の委員の皆さまにも情報共有・協議していただきながら進めたいと考える。
- ・なお、本協議会は、協議の内容によって委員の構成が変わってくる。新モビリティサービスの内容が決まったら、その実施主体などの参加も考えられる。その場合には、交通会議においても協議していただきながら進めていきたいと考える。

6 閉会

○梶田副会長

- ・まだ内容がふわっとしており、時間がないことがネックではあるが、良い計画ができ、来年度以降の事業につながるよう進めていただきたい。

以上